

発行 伊藤ひであき事務所 豊橋市東田町西前山144-14 TEL 0532(53)3483 FAX (53)3809
EMAIL : hide@apli.co.jp インターネットホームページ <http://www.itouhideaki.com/>

柏崎にて「拉致問題」を考える

10月21日、22日と新潟県柏崎市に滞在し、「東海・近畿・北陸三地区都市監査事務研修会」に参加しました。会場となった柏崎市市民会館こそ、3年前の10月、蓮池薫さん夫婦が24年ぶりに帰国し、17日に柏崎に戻って、固い表情で記者会見された場所です。

それだけに「拉致問題を取材して」と題しての新潟日報社論説委員の小町孝夫氏の講演、特に「拉致事件はなぜ起きたか」については示唆に富む内容でした。

朝鮮半島はまだ「戦争状態」

1948年8月15日この日は日本にとっては終戦記念日であるが、朝鮮半島にとっては日本の「植民地支配」に倍加する祖国分断という悲劇に見舞われていく。

南北に分断された朝鮮半島を同じ民族であるがゆえに一つの国家に統一したいという特に北朝鮮側の野望が強く、韓国を北朝鮮主導のもとで統一しようとする動きとなり、ぶつかりあったのが1950年の朝鮮戦争。そして1953年の休戦協定により「戦争はいつでもできる」という緊張状態で今日に至っている。

統一に失敗した金日成はそれ以降も、「韓国で革命を起し祖国を統一する」という行動に徹し、これに対抗する韓国側のK C I Aと火花を散らした情報活動・工作活動を展開し、朴大統領の暗殺失敗、大統領府の襲撃などにことごとく失敗していく。

朝鮮半島の特殊事情のなかでの拉致問題

そして1975年南北ベトナムが統一されたという国際情勢の大きな変化が、金日成をして「ベトナムでできたことが朝鮮半島でできないものか」という強い思いから、韓国への潜入 それも日本人のパスポートを使っている潜入工作を活発化させていく。その典型が1987年に起こった大韓航空機の爆破事件である。

またその頃、金日成の後継者問題があり、息子金正日は功を焦り、そのための秘密工作組織の必要性 - こ

うした背景があってここに日本人が巻き込まれていく。

また「革命を有利に展開するために、新潟港に入港する帰国船を最大限に利用して、日本人を使って韓国に革命を起すための秘密工作はできないものか。日本人を使って対韓工作を有利に展開せよ」という金正日の秘密教示がなされていることも脱北者のもたらした資料の中に読み取ることができる。（「拉致」金賛汀著（ちくま書房））

このような朝鮮半島の特殊な情勢のなかで1970年代後半から80年代前半に集中して拉致事件が起きる。77/9石川県で久米さんの失踪、77/11横田めぐみさん、78/7地村さんと富貴江さん、7/31蓮池さんと祐木子さん、8/12曾我ひとみさん母子・・・1983年の有村さんがコペンハーゲンで失踪するまで続く。

2002年9月の小泉首相と金正日との会談で「1970年代後半から80年代前半に北朝鮮の特殊工作機関が暴走した」と金正日は謝罪している。一つは日本語を学ぶ体制作りのために、もう一つは他人の身分を利用して南に入るために。

解決の糸口はあるのか

解決の糸口は少しづつ見えてきた。北朝鮮は1960年代以降、自分では食えない国であり、北朝鮮の生命維持装置は中国が握っている。日本からの支援もどうしても欲しい。ここらあたりを外交カードに使ってやっていくべきではないのか。また、その一方で中国と韓国の協力も必要であるが、残念ながら靖国問題で日本と中国・韓国の関係は凍り付いている。

北朝鮮まで700⁺しか離れていない、そこに生死不明な人たちがいる。またその人たちの帰りを待っているご家族の高齢化が進んでいて、命と引き換えに戦っていることを忘れないで欲しい。（END）